

大きくて美味しい「彩玉^{さいぎよく}」を作るポイント

「彩玉」は、埼玉県が初めて育成したニホンナシの品種です（2005年品種登録登録）。「彩玉」は、収穫期が8月中下旬から9月上旬で、主要品種の「幸水」、「豊水」より大玉で、酸味が少なく甘味が強いのが特徴です。生産農家にとっても、花芽が多く栽培しやすいなど、優れた特徴があります。

最近では、テレビ番組でも取り上げられ、埼玉県の新たな特産品として、人気が出ています。

ここでは、大きくて美味しい「彩玉」を栽培するためのいくつかのポイントを説明します。



写真1 「彩玉」の着果の様子



写真2 販売されている「彩玉」

1 適正な着果量

果実が甘くなるためには、果実周辺の葉の役割が重要です。

枝ごとに着果量を変えて果実の糖度を調べました。大玉で、糖度13度（多くの方が甘いと感じる糖度）以上にするには、1果あたりの果そう葉数（伸び出さず密生している葉）を25枚以上確保することが必要でした（図1）。

また、枝1mあたりでは4個以下（5節に1果）の着果数が理想です（表1）。

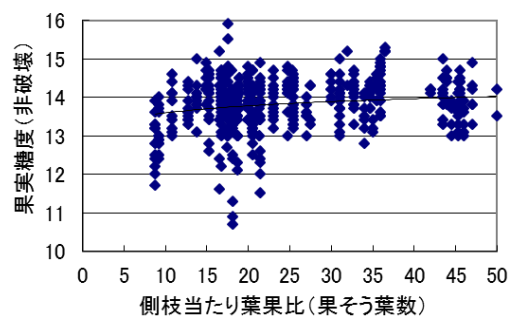


図1 「彩玉」の葉果比（果そう葉）と糖度の関係

表1 「彩玉」の着果負担の違いが果実品質に及ぼす影響

着果基準	06年(5年生)		08年(7年生)	
	平均果重(g)	糖度 ²⁾ (非破壊)	平均果重(g)	糖度 ²⁾ (Brix)
1果/3節 ¹⁾	495	12.6	603	13.3
1果/4節	537	12.7	643	13.5
1果/5節	564	13.1	707	13.7

²⁾2006年はFANTEC社製非破壊糖度計測定値。2008年はBrix測定値

¹⁾1年枝時点の節で計測(2年枝以降の枯れ芽、複芽も1節とした)

2 収穫期の予測

花が咲いてから収穫までの日数（成熟日数）は、満開後33日間の平均気温に影響されることが明らかになっています。平均気温が高い年には、成熟日数は短くなり、低い年には長くなります。

今年の満開後平均気温（4/8～5/10）は16.4℃です。予測式に当てはめると収穫開始予想日は8/14（満開後128日）となります。

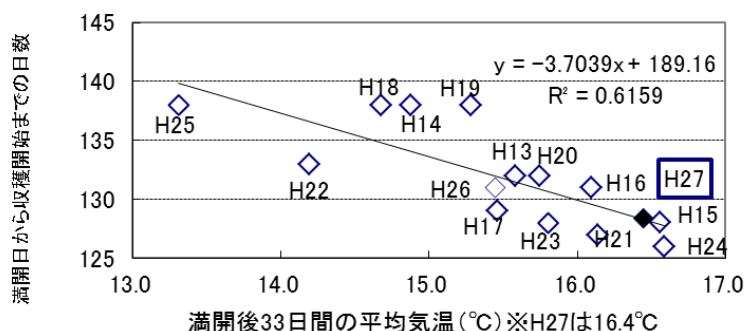


図1 「彩玉」の満開後33日間の平均気温と満開日から収穫開始までの日数の関係(全平均132日/15.5℃)

3 収穫適期

「彩玉」の果皮色は、「幸水」よりやや暗いので、収穫適期は専用のカラーチャートで判断します。

収穫期の初めは、カラーチャート2以上の赤みの強い色で収穫します。収穫期後半では、カラーチャート2未満で、緑色が残る色で収穫します(写真3)。

このように、カラーチャートを使って収穫することで、甘みが十分に高まり、果肉が軟らかくなり過ぎない美味しい「彩玉」を収穫できます。

【関連ページ】「彩玉」の販売先はこちら↓

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0904/906-20100118-60.html>

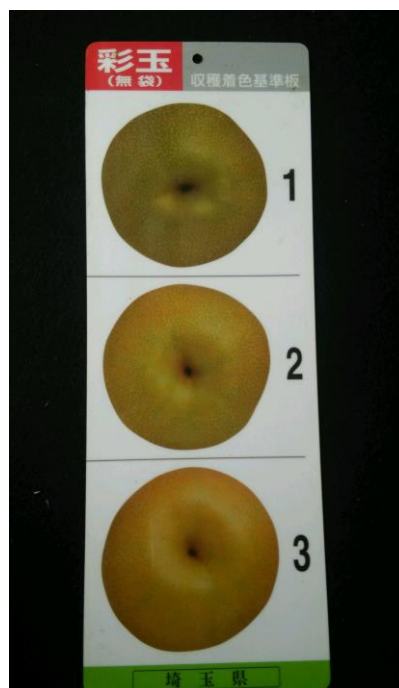


写真3 「彩玉」専用カラーチャート

【問い合わせ先】埼玉県農業技術研究センター高度利用・生産性向上研究担当

(久喜試験場駐在) 電話：0480-21-1113 (代表) FAX：0480-21-1113

※埼玉県農業技術研究センターホームページ

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0909/index.html>